

今秋開幕、収蔵作品展のお知らせ

本展では収蔵作品を通して、水戸芸術館現代美術センターが開催してきた展覧会の軌跡を辿ります。

当館は、開館以来、美術館の中でもとりわけクンストハレとして、収集・保管を主なミッションに据えず、展覧会等の自主企画に重点を置いた活動を行ってきました。そのため、当館が収蔵してきたのは、開館前に購入した作品のほかはいずれも、企画事業に招聘したアーティストによる作品です。それらは当館で行われた展覧会の出品作品そのものか、あるいは当館が紹介したアーティストの代表的な作品にあたります。つまり、これら収蔵作品は、水戸芸術館現代美術センターによる展覧会の証であるとともに、同時代を生きるアーティストたちがそれぞれの方法で貫いてきた創作の結晶であるといえるでしょう。

本展では開館直前の 80 年代末に収蔵した作品から 2026 年の新規収蔵まで、これまで当館では展示の機会がなかった初展示の作品を含む、およそ 50 点を展覧します。手法・ジャンルは、彫刻から絵画、写真、インスタレーション、そして参加型作品まで幅広く、制作年も 1960 年代から 2020 年代に及びます。なかには当館のギャラリーにあわせて構想された作品もあり、それらはアーティストによる空間との対話の産物として、文字通り「ここ」でしか鑑賞できません。素材そのものを探究する表現から、もう一つの世界へ想像を促すもの、また悠遠な時間や壮大なスケールあるいは負の歴史を通して「生きること」に想いを巡らせるものまで、アーティストたちは静かに、でも雄弁に語りかけます。

さあ、アーティストたちが作品に託した伝言に、いま一度出会い直してみましょう。

【展覧会概要】

展覧会名：収蔵作品展「再会－17 人のアーティストによる伝言」

作家名：I.F.P.、マグダレーナ・アバカノヴィッチ、飯川雄大、磯崎新、上田薫、河口龍夫、クリストとジャンヌ＝クロード、小清水漸、徐冰、杉山知子、辰野登恵子、長澤英俊、野村仁、日高理恵子、クリスチャン・ボルタンスキー、宮脇愛子、ロバート・メイプルソープ

会 期：2026 年 11 月 7 日（土）～2027 年 1 月 31 日（日）

開場時間：10:00～18:00（入場は 17:30 まで）

会 場：水戸芸術館現代美術ギャラリー

休 館 日：月曜日（ただし 11 月 23 日、1 月 11 日は開館）、11 月 24 日（火）、
年末年始（2026 年 12 月 27 日（日）～2027 年 1 月 4 日（月）、1 月 12 日（火））

入 場 料：一般 900 円、団体（20 名以上）700 円

高校生以下／70 歳以上、障害者手帳などをお持ちの方と付き添いの方 1 名は無料

※年齢のわかる身分証明書などが必要です

●一年間有効フリーパス →「年間パス」2,000 円

●学生とシニアのための特別割引デー「First Friday」

→ 学生証をお持ちの方と 65 歳～69 歳の方は、毎月第 1 金曜日（11 月 13 日、12 月 4 日、1 月 8 日）100 円

※学生証、年齢のわかる身分証明書が必要です

主 催：公益財団法人水戸市芸術振興財団

協 力：サントリーホールディングス株式会社

企 画：竹久侑（水戸芸術館現代美術センター芸術監督）

【貸出図版】

展覧会広報用にデータを貸し出しますので、ご要望の方は鳥居までお問合せください。

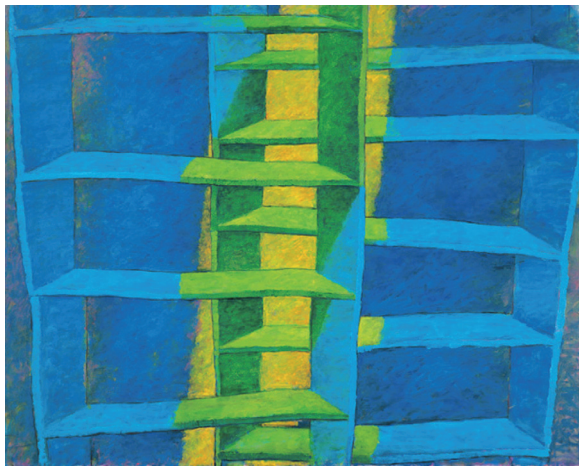
1



4



2



5



3



1. 小清水漸《浮くかたち〈八艘・四杯・三隻・一片〉》1987年
水戸芸術館蔵 水戸芸術館現代美術ギャラリーでの展示風景、1997年
撮影：齋藤剛
2. 辰野登恵子《中心集中》2010年 水戸芸術館蔵
3. 長澤英俊《花々のくに》1985年 水戸芸術館蔵
水戸芸術館現代美術ギャラリーでの展示風景、2020年 撮影：根本譲
4. 杉山知子《each-all》2005年 水戸芸術館蔵
5. 河口龍夫《関係—再生・ひまわりの種子とマムサスの歯》1998年
水戸芸術館蔵

【お問い合わせ先】

水戸芸術館現代美術センター 〒310-0063 茨城県水戸市五軒町 1-6-8

展覧会について：竹久侑（現代美術センター芸術監督）

広報・写真貸出について：鳥居加織（広報） e-mail : cacpr@arttowermito.or.jp

Tel.029-227-8120